



リレー随想

人口減社会への対応

寿製薬株式会社

代表取締役社長 富山 泰

謹啓 2014年4月より会社代表を務めさせていただいております。またTDS協議会そして医薬工業協議会の時代より長きに渡り大変お世話になっており、ご厚情に厚く御礼申し上げます。幼き日より父の弊社相談役 富山 剛が黄色い封筒を家に持ち帰ってきたことを鮮明に記憶しており、50歳手前にて寄稿するに当たり深く郷愁を感じる次第でございます。

ところで、弊社はジェネリックと共に新薬を手掛けており、私ごとではございますが、入社以来の約20年に渡り主に新薬の研究開発を歩み、2015年には糖尿病治療薬スーグラ錠の創薬で日本薬学会から世界初のSGLT2阻害剤の研究により医薬化学部会賞をアステラス製薬と共同受賞、また同年に新薬開発の助成のため新設された優先審査制度の「先駆け審査指定」に於いて、私も発明者で国際共同治験第3相の抗ガン剤 Gilteritinib を厚労省より選出していただきました。更にスーグラとジャヌビアの配合剤も、メルク社、アステラス製薬と第3相共同治験中がございます。このようにジェネリックと新薬を手掛けている弊社でございますが、最近、気がかりなことがあります。それは超少子高齢化による薬剤費抑制の波に飲み込まれるのではないかということです。

私は学生時代、製薬産業は一生安定だから何ら問題ないと言われ続け、何の疑いの無いまま進学し、30歳を越え、父の経営する長野県上田市近傍の弊社に米国でのポスドクを終えて入社しました。帰国後に子宝に恵まれましたが、私の年齢を考え、小・中学校の同級生は、子育てを既に終えており、もはや子供の参観日で会うことはなかろうと予想しましたところ、やはり多くの知人とは参観日で再会できませんでした。暫くして、区の会計を引き受け、区費を徴収するため各家庭を訪問したところ、実に4～5軒に1軒は50歳以上の未婚者を有する家庭であり、驚きました。ああそうか！参観日に知人に会わないのは、子育てが

終わったのではなく、結婚していない人も少なからずいるのだ。長野県から東京圏への転出者数も10年前から激減し、過去10年で廃校された全国の小学校も約6,000に上るのも頷けました。

日本ではいずれジェネリックと新薬と共に厳しい時代が来ると確信するに至った次第でございます。それは、1961年の国民皆保険の成立時には若者の約14人で1人の高齢者を支える枠組みであったのが、2040年には2人以下の若者が1人の高齢者を支える時代になることを痛切に実感しました。

ジェネリック推進の大きな理由は、まさに少子高齢化で国家の財源を長期収載品に支出しては破綻してしまう、無い袖は振れない、このことが大きな要因でした。したがって国策である薬剤費抑制のためのジェネリック浸透後、2020年までのGE80の達成の先には、先発品をたとえジェネリックに替えても人口減少により財源のキツイ時代が来ることが容易に予想され、これは業界としても防がなければなりません、ジェネリック価格の相当な下げ圧力があるかもしれません。

田舎にいると感じますが、今はその過渡期なのかもしれません。そのようなGE80後の国内市場の縮小という困難な時代の到来を予想しつつ、日本より高い薬価が付く中国を重視し、約20年前より、毎月1泊2日の強硬日程で中国での営業会議に参加しております。コピー薬が横行し健康被害が発生する中国での約2億人の富裕層のオリジナル品への信頼は厚く、また2015年に中国薬局方に初収載され、日本の売上を越えたマーズレン顆粒を中国で更に伸ばすべく努力しております。更に新薬のテーマでも、人口減に対応すべく、より付加価値の高い抗ガン剤を複数開発中です。

このように超少子高齢化で、一生安定な産業から一生不安定な産業に陥ってしまった未曾有の激変の中に国内製薬業界が置かれていますが、同郷の出身で今年の大河ドラマ放映中の「真田丸」に登場する真田親子同様に、小大名ながら名だたる大名相手に知恵を働かせて臨機応変に振る舞い、「小粒でもピリリと辛い山椒」のような企業を目指すべく一層精進して参りますので、諸先輩方に於かれましては、ご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。 謹白